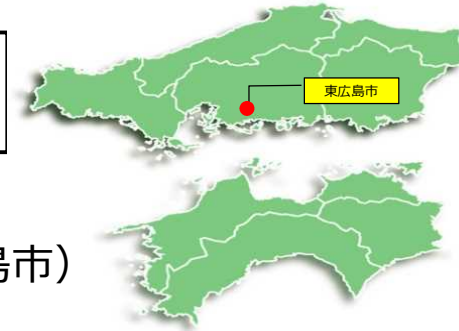


営農型太陽光発電が農業と地域を元気にするツールに！



防鳥防虫ネットのある発電設備



手動式回転パネル



支柱を活用したトマト栽培の様子



下部農地で収穫時期を迎えたトマト

<概要>

- ・ 事業実施主体：重家 雅文（広島県東広島市）
- ・ 発電設備：営農型太陽光発電
発電出力 38.3kW、発電電力量 5万kWh/年
- ・ 発電設備下部の農地：8a（トマト他露地野菜）
- ・ 建設費：約1,300万円
- ・ 運転開始時期：平成28年1月

<特徴>

- ・ 手動回転式パネルは、季節に応じて0度から60度に傾斜角度を変えることができ、年間を通じて発電効率アップのほか、強風や積雪への対策にもなっている。
- ・ 本事例の太陽光パネルは、太陽光が地面に届くことを遮る割合を33%に設定し、年間を通じて各種作物の栽培が可能。下部農地で、生産された野菜等をJA等の産直コーナーで販売、販売額も増加傾向で推移。
- ・ 発電施設の単管支柱を活用し、それに塩ビ用パイプを設置することで、防鳥防虫ネット取り付けやトマト用の吊り下げ資材が利用可能。
- ・ 地域の平均的単収と比べ2割以上減収させないために、特にトマトなど即効性肥料過多による生理障害や連作障害を回避すべく有機質肥料（ボカシ）に転換。
- ・ 売電収益で農業がらみの黒字転換が実現、余剰資金は農機具の更新を可能とし、個人年金の充実へもつながっている。
- ・ 今後は、当該地域において営農型太陽光発電事業を普及させることにより資金を循環させ豊かな田舎暮らしを实践、地域の活性化を目指す。



発電所の看板